

令和3年度

さいたま市立岩槻中学校だより

10月号 (令和3年10月1日発行)



槻の若木

〒339-0054 岩槻区仲町1-14-35

電話：048-756-0254

FAX：048-758-7483

HP：<http://iwatsuki-j.saitama-city.ed.jp>

Mall：iwatsuki-j@saitama-city.ed.jp

体現 ～自分の体で実現すること～

校長 松戸 政世史

清秋の候、オンライン授業など、教師、生徒、保護者の連携で何とか実現させました。若木祭（文化祭）では、出演者も観客も一体となって、盛り上がりました。岩中バザーは緊急事態宣言中で中止となりましたが、75周年パッケージの「イワチュウ」は好評でした。ありがとうございました。体育祭は11月に延期、新人戦は中止となりましたが、みんなで知恵を出し合い、これからの行事を実施させていきたいと思いますので、保護者、地域の方々のご理解、ご協力をよろしくお願いします。

さて、「体現」とは、自分の考えを身をもって実現することとあります。このことについて、10代までは、SNSの世界より、現実の世界で多くの体験をしてほしいということです。私は、小さいころから母の実家のある栃木県で、毎月のように自然のなかで遊んでいました。実家に着くとすぐに、ご飯粒を持って川に行きます。竹を切って作った竿に、糸と針とおもりだけの簡単な仕掛けです（脈釣り）。「あぶらご」と呼ばれる小魚を中心に釣っていると、魚体にオレンジ色の線の入った大物が水の中を泳いでいます。「ウグイ」です。ウグイは、ご飯粒には振り向きもしません（岩の下にいる川虫で釣れる時がありました）。「ゼンマイ」取りや「ワラビ」取り、「アカンボ」というキノコ狩り、「タケノコ」は、隣の人の所有する山のものを取って、叱られる失敗もしました。稲刈りが終わると「イナゴ」取り、木綿で作った袋に、竹の筒を縛って、取ったイナゴをそこから入れては、親指で押さえます。足は取った方が美味しいですが、甘く煮込んで食べます。「シマヘビ」も頭を踏んで捕まえ、皮を剥いてから焼いて食べました。カルシュウム摂取？で美味しくはありませんでした。でも、自然の命を頂いているのだから、残さずに食べます。「地蜂」を取ったこともあります。「赤ガエル」の足の部分（もも肉？）に目印の綿をつけ、竹の枝先につるして待ちます。すると、どこからか地蜂が飛んできて、運んでいきます。しかし、小さめの蜂なので、重くて早く飛ぶことができません。さあ、追跡開始です。山の中や小さな川など、お構いなしで追いかけます。何十分も追いかけて続けると、巣のある竹やぶに着きました。蜂は、空中から「すーっと」地面に開いている穴のなかに入りました。その穴に持ってきた花火の煙幕に火をつけて差し込み、煙が消えるまで待ちます。すると、地蜂は煙幕の煙で麻痺していて、その間に穴の周辺を掘っていくと、大きなもので5段の蜂の巣が取れました。何百匹もいる幼虫の一部をバターで炒めて食べ、残りは売りました。大人になってからは、定期的に海釣りに行き、新鮮な魚を刺身や焼き魚、鍋にして残さず食べています。干物にも挑戦しようと思います。このような体験をしてきた私には、ゲームの面白さはわかって、実際の体験に勝ることはないのです。是非、皆さんには、10代までは自分の体を使って、いろいろな体験をし、そこから得た知恵をゲーム作り等に活用してください。SNSは便利です。でも、最近の子供を見ていると、既読のために、自分の時間を何時間も使わなくてはならなくて、おかしくないですか。大事なことは、直接会って話した方が、誤解も生まれず、分かり合うことができると思います。

最後に、オリパラでは、自分の能力を最大限に発揮した選手の姿に、大きな感動をもらいました。皆さんには、握力や腕立て伏せの回数が増えたとか、50mのタイムが伸びたとか、リフティングの回数が増えたとか、小さな目標をクリアしていくことに、また仲間とともに決めるゴールに、喜びを感じながら、チャレンジ精神で、自分自身の体を鍛えてください。ファイト！！一人ひとり。